【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	滋賀県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	長浜市立神照小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	３	３	３	３	３	３	２	２０	
児童数	９２	１０６	１１０	１１２	１１３	１０４	７	６４４	２８

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

自分の思いを生き生きと表現する子どもの育成
－有効な少人数授業と評価の在り方を求めて－

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

○実施学年・教科
・全学年・国語
○選択理由
　今、学校では、変化する社会を生き抜くために「生きる力」の育成が求められている。特に、伝え合う力の育成は、生きる力を育てるために大切なことである。
　本校では、過去３年間、伝え合う力の中の音声言語である「話す力、聞く力、話し合う力」の育成に力を入れ、主として、国語科において「話す力、聞く力、話し合う力」の基礎トレーニングとその実践における指導の在り方に取り組んできた。
　本年度は、さらに「話す力、聞く力、話し合う力」の基礎・基本の定着をはかるため、子どもの個性を大切にし伸ばす少人数授業の在り方、さらに、学習内容の習熟度を見取る評価の内容や方法を探っていきたい。

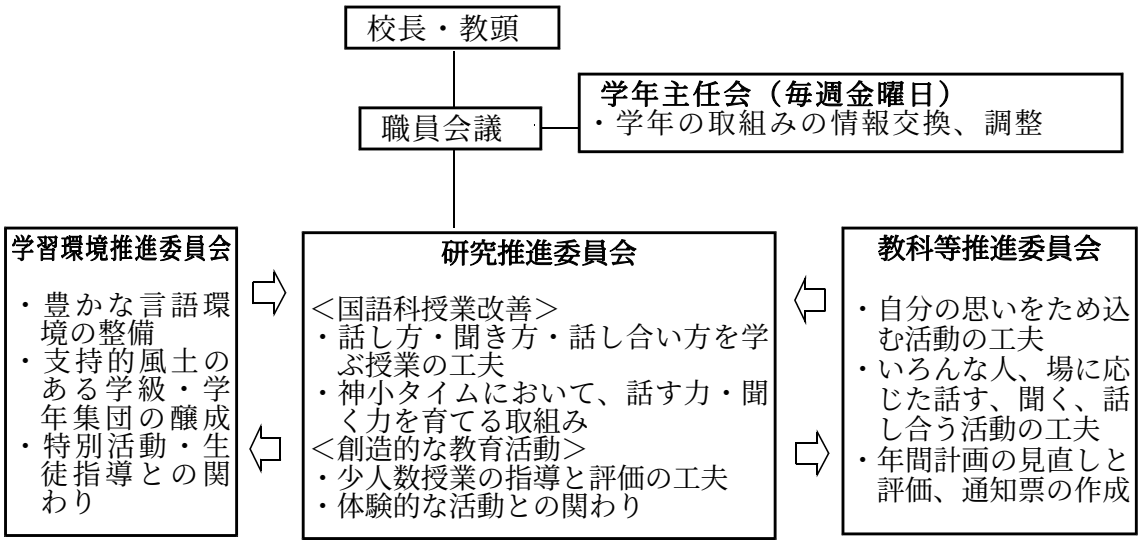
(2)　年次ごとの計画

平成15年度	**○　テーマ** 自分の思いを生き生きと表現する子どもの育成 －有効な少人数授業と評価の在り方を求めて－ **○　研究の見通し** 全学年で、国語科や教育課程全体において「話す力、聞く力、話し合う力」の育成を図ることによって、児童のコミュニケーション能力の育成を図ることができるであろう。 **○　研究の内容・方法** ・児童一人ひとりの基礎・基本の確かな定着と個性の伸長を図るため、子どもの発達特性を考慮し、教材の特性を生かした少人数授業のよりよい形態について明らかにする。 ・発達がまだ未分化な低学年では、子どもたちの学習活動に対する欲求を満たす部分的な少人数授業を取り入れ、学習への意欲や知識・技能を高められるようにする。 ・様々なものに強い興味・関心をもつ中学年では、子どもたちの学びに応

	じた学習課題に基づくコース別少人数授業に着目し、学習意欲を喚起させたり、知識・理解を定着させたりできるようにする。 ・発想や考え方の個人差が大きくなる高学年では、学習方法などに表れるその子の個性や特性によって選択させる少人数授業に着目し、意欲的な学習と思考の深化を促したり、その子らしさを育てたりできるようにする。 ・基礎学力の定着や個性の伸長等の視点から、評価規準をもとにしてめざす子どもの姿や学習成果の観点を設定し、具体的に評価する方法を明らかにする。

平成16年度	○　テーマ 自分の思いを生き生きと表現する子どもの育成 －有効な少人数授業と評価の在り方を求めて－ ○　研究の見通し 全学年で、国語科や教育課程全体において「話す力、聞く力、話し合う力」の育成を図ることによって、児童のコミュニケーション能力の育成を図ることができるであろう。 ○　研究の内容・方法 ・児童一人ひとりの基礎・基本の確かな定着と個性の伸長を図るため、子どもの発達特性を考慮し、教材の特性を生かした少人数授業のよりよい形態について明らかにする。 ・発達がまだ未分化な低学年では、子どもたちの学習活動に対する欲求を満たす部分的な少人数授業を取り入れ、学習への意欲や知識・技能を高められるようにする。 ・様々なものに強い興味・関心をもつ中学年では、子どもたちの学びに応じた学習課題に基づくコース別少人数授業に着目し、学習意欲を喚起させたり、知識・理解を定着させたりできるようにする。 ・発想や考え方の個人差が大きくなる高学年では、学習方法などに表れるその子の個性や特性によって選択させる少人数授業に着目し、意欲的な学習と思考の深化を促したり、その子らしさを育てたりできるようにする。 ・基礎学力の定着や個性の伸長等の視点から、本年度は評価について、評価方法、規準等について検討を加え、少人数指導の有効性を客観的に把握できる方途を探る。

(3)　研究推進体制



Ⅲ　平成１５年度の研究の成果および今後の課題

１．研究の成果

○国語科における習熟度別編成の方法のパターンが明確になり、少人数授業の有効性が見えてきた。
○単元の目標に適応した少人数授業を仕組むことにより、子どもたちの意欲を持続させることができた。
○学習目標を絞り込むことによって自己評価や教師による評価がしやすくなり、評価の観点がはっきりさせることができた。また、児童の自信や意欲の向上にもつながった。
○学年担当を配置することにより、児童の評価についての情報交換、担任との連携や指導計画の作成、学習の進め方などについての話し合いの時間の確保ができた。

２．今後の課題

・国語科の少人数学習での評価の在り方について、自己評価の在り方を含め学年の発達段階に応じた評価の在り方を探る必要がある。
・国語科における習熟度学習について、その他の教科との関わりを考慮しながら、効果的な単元および領域の開発をする必要がある。
・子どもたちの個々の学力を数値的に把握するとともに、学力の伸びを数値的に表すことによって、少人数学習の有効性を客観的に把握できる方途を探る必要がある。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組み

・個人の評価カードを作成し、「話す、聞く、話し合う」について、一人ひとりの児童の定着度や変容を記録し今後の取組みの方策を探る。
・朝の会において、各学年の「話す、聞く、話し合う」ための取組みの発表を行い、自信をつけさせるとともに、児童の能力の定着度を評価する。
・保護者による学校評価の中で、基礎学力の定着具合を評価してもらうとともに基礎学力についての願いを記述する項目を作り保護者の願いを把握する。
・地域開放参観日と学校評議員会を同日に開催し、児童の基礎学力の定着度を評

価してもらうとともに、基礎学力向上についての考え方を説明し、意見を出し合う。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

ⅰ）授業研究会及び学力向上フロンティア事業　地区協議会の開催
・年間７回の授業研究会を開き、講師を招聘し研究の方向性を探る。また、第６回については公開とし、教材の開発を含めた授業の在り方について検討を行うとともに、県内各地にも参加を呼びかけ、取組みについて意見交流を行う。

月 日	内　　容
４．16	校内研究会・・・研究主題、研究内容について
30	校内研究会・・・各実践推進委員会より提案
６．11	第１回授業研究会　２年「ともこさんは　どこかな」
30	第２回授業研究会　４年「新聞記者になろう」
7．25	校内研究会・・・今後の研究の方向について
8．20	校内研究会・・・新教育課程における課題
10．１	第３回授業研究会　１年「よくきいて　クイズにこたえよう」
24	第４回授業研究会　５年「伝え方を選んで、ニュースを発信しよう」
11．４	第５回授業研究会　３年「みんな、子どもだった」
27	第６回授業研究会および学力向上フロンティア事業発表会（本校会場） ６年「話し合って考え、意見文にまとめよう」
１.28	第７回授業研究会　障害児学級　「すごろく遊びをしよう」
２.25	教育課程検討会・・・次年度の研究の構想について

ⅱ）地域開放学習参観日の設定および保護者による学校評価、学校評議員会の実施
学期に１回、半日学習参観日や地域開放参観日を実施することにより、少人数学習の取組みの様子や児童の実態を見てもらう。また、保護者に対する学校評価を実施し、子どもの学力について保護者の意識や考えを把握するとともに、学校評議員会において意見を交流し合う。
ⅲ）ホームページの公開
平成１５年度中に学校のホームページを更新し、取組みを紹介する。

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　■１５年度からの新規校　□１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　□７～１２学級
□１３～１８学級　■１９～２４学級
□２５学級以上

【指導体制】　■ 少人数指導　□ ＴＴによる指導
■ 一部教科担任制　□ その他

【研究教科】　■ 国語　□ 社会　□算数　□ 理科
□ 生活　□ 音楽　□図画工作　□ 家庭
□ 体育　□ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■ 有　□無